

全業種総合

回答企業数291企業（回答率100.00%）

概況

～総合的業況判断DI値 前期比横ばいで推移～

総合的業況判断DI値は、前期比0.3ポイント低下の2.8となった。

業種別での業況判断DI値は、飲食業が15.8ポイント上昇の63.2、サービス業は横ばいで11.9、建設業が12.0ポイント上昇の1.7となった。一方で製造業が3.0ポイント低下の0.0、小売業が2.2ポイント低下の▲5.5、運輸業が20.0ポイント低下の▲10.0、卸売業が10.4ポイント低下の▲10.4、不動産業が33.3ポイント低下の▲11.1となった。

飲食業、建設業が改善したものの、7業種については横ばいやや、やや悪化・悪化となった。

～経営上の問題点～

業種全体で「材料価格の上昇」104先、「人員不足」88先、「売上の低迷・減少」86先、「利幅の縮小」72先、「経費の増加」69先と上位を占めた。

前回調査比、「材料価格の上昇」2先減少、「人員不足」が4先増加、「売上の低迷・減少」は同数、「利幅の縮小」14先減少、「経費の増加」5先減少となった。

設備投資計画では、「予定あり」とした企業が37先、前期比7先減少、設備投資実施予定期割合は12.7%と前期比2.6%減少した。業種別では、運輸業（土地・建物）40.0%、製造業（土地・建物・機械・その他）24.2%、サービス業（建物・機械・その他）16.7%、不動産業11.1%（土地）小売業（建物・機械・その他）11.0%、卸売業（建物・機械・その他）10.3%、飲食業（建物）5.3%、建設業（建物・機械）5.2%となった。

資金繰りDI値は、前回調査比0.6%低下の▲5.8と横ばい、今期借入した企業は17.5%と前回調査時(14.8%)より2.7%増加となった。

来期の見通し

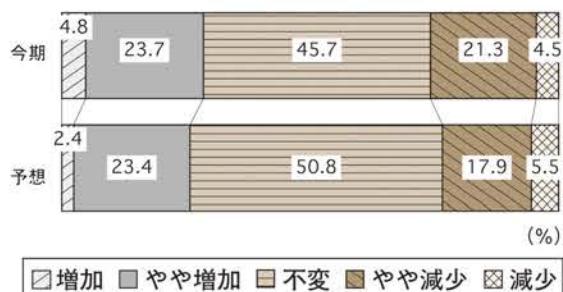
～総合的業況判断DI値 横ばいの見通し～

各業種の見通し業況判断DI値は、今回調査比0.0ポイントの2.4と横ばいの予想となった。

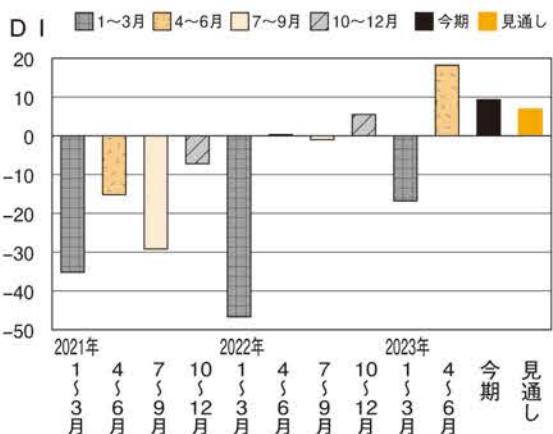
業種別では、運輸業が40.0ポイント上昇の30.0、飲食業が42.1ポイント低下の21.1、サービス業が2.4ポイント上昇の14.3、製造業が12.1ポイント上昇の12.1、建設業が8.6ポイント上昇の10.3、卸売業は10.4ポイント上昇の0.0、小売業は9.9ポイント低下の▲15.4、不動産業も11.1ポイント低下の22.2と、来期の見通しは上昇が5業種、低下が3業種となった。

今期資金手当した先が17.5%であったが、今後資金手当等借入を予定している先は16.9%となっている。

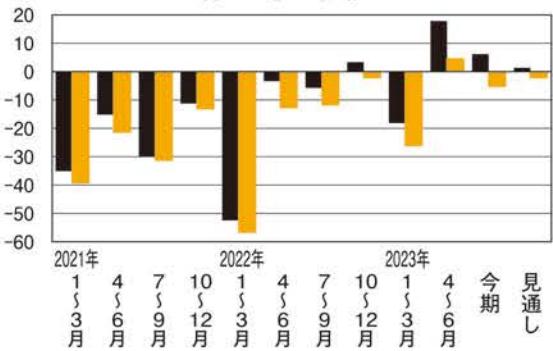
業況判断（全業種）



売上・受注DI値の推移



各DI値の推移



設備投資計画の有無

